

脱殻や声の響けり法師蟬 (令和4年「秋季俳句会」投句作品)

前田秀一

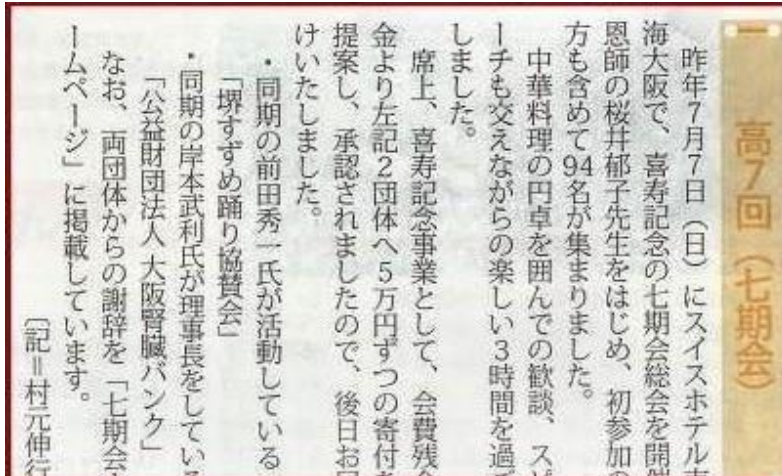
11月17日(木)、年末も近づいたこの時期、一通の喪中知らせのハガキに喪失感を覚えました。

1960年4月、大日本インキ化学工業株式会社(現・DIC株式会社)に入社して以来、在職中、相互にリスペクトしながらライバルを意識したS氏の奥様から10月21日に永眠された由、お知らせでした。

入社当時の直属上司が、相互に京都大学・応用化学科・桜田一郎教授(ビニロン発明者、文化勲章受章者)門下生であったことから、意識的に何かにつけて競わされ、入社20年後には、製造担当の彼(東北大学・応用化学専攻)は、フランスへの技術輸出による現地生産工場の立ち上げ、技術担当の私(大阪市立大学・応用化学専攻)は、技術輸入による合弁会社設立と会社の経営戦略に関わりました。

1989年、私が本社企画本部(東京)に転勤してからは、競争意識から解放され、「使用済みガラス繊維強化プラスチック製品(FRP漁船、住宅設備機器等)廃棄物再資源化事業システム開発」に取り組む私に、現場感覚でいろいろと現実的な助言をしてくれ、身近な支援者として助けてくれました。

退職して帰阪後、「茶の湯の文化」と「仙臺すずめ踊り」に関心を持ち、取り組む私の市民活動に関心を寄せてくれました。特に、「仙臺すずめ踊り」の普及活動では、故郷の伝統芸能であることから、故事来歴に関して情報収集を手伝ってくれ、支援者として堺と仙台の絆の醸成に大いに貢献されました。



都 様
堺市で雀踊り面白い話
とたのしみました。我が方も何
かと思つ、同封の資料を送
ります。おたのしみ下さッ
8月10日 伊達宗行

2014年5月22日発行「三丘同窓会報」掲載

伊達宗行先生からの「堺すずめ踊り」返信メモ

2019年(令和元年)8月25日(日)、「堺すずめ踊りの祭典」(フェニーチェ堺・大ホール)の準備の課程で、都福仁さんから大阪大学大学院理学研究科で博士論文研究のご指導を得られた伊達宗行先生(大阪大学名誉教授)が伊達亘理藩の藩主末裔であるとのお知らせを受けました。

このことを伝えると、伊達宗行先生は、現時点(当時)でも、仙台藩志会会長として、主要行事においてはご挨拶に立たれておられ、仙台藩志会の皆さんは、毎年5月第3土曜日～日曜に開催される「仙台・青葉まつり」(仙臺すずめ踊りの祭典)の先導者として練り歩かれている由説明してくれました。

小川誠二郎さんの先導により、同窓同期の俳人・土生重次師の教えを規範として「金剛俳句会」が興され、今日、「アカシア俳句会」として発展継承しておりますが、ここに至り、富岡訓子さんをはじめ、岩壺克哉さんおよび中野陽典さんと有能な方々とのお別れがありました。

ご生前は、競い合い相和してきましたが、今、取り残された身となつては、これら同期友人達の豊かな才能に触れたことの大きさに気付かされ、生前の名声を偲びつつお悔やみ申し上げます。

